

4 多成分系漢方薬の構成内容の理解の 試み - 清心蓮子飲を例に -

神戸医療センター 泌尿器科¹⁾、センブククリニック²⁾、
三谷ファミリークリニック³⁾、あきば伝統医学クリニック⁴⁾

大岡 均至¹⁾、千福 貞博²⁾、三谷 和男³⁾、
秋葉 哲生⁴⁾

【目的】漢方薬の作用機序の理解を困難にしている理由の1つに、その方剤が多成分より構成され、作用も相加・相乗・拮抗作用等を有していることがある。清心蓮子飲(以後、TJ111)を例に方剤構成内容の理解法につき考察した。

【方法】方剤を構成する主たる成分(3DHPLCから分離された有効成分)、秋葉のユニット理論、文献報告を検討した。その後当院内の医師38人にユニット理論についての面接を行った。

【結果】TJ111の主たる含有成分は、黄ゴン由来の『バイカリン』、人参由来の『ギンセンノシド(Rb1,Rg1)』、甘草由来の『グリチルリチン酸』等である。バイカリンは膀胱癌細胞アポトーシス誘導、大腸菌が産生する β -グルクロニダーゼ阻害、抗酸化、抗炎症、抗腫瘍、抗アポトーシス、抗ウイルス、抗菌作用を示す。ギンセンノシドは高麗人参のサポニンで、Rb1は中枢抑制作用、Rg1は緩和な中枢興奮作用(抗疲労、鎮静作用)を有する。血行改善により冷え性や低血圧、貧血に加え、便秘や疲労回復効果を有する。グリチルリチン酸は甘草に含まれ、抗炎症作用(抗アレルギー、炎症伝達物質阻害)、免疫調節、肝細胞への作用(肝細胞の障害を抑え、増殖促進)、ウイルス増殖抑制作用を有する。ユニット理論では車前子/茯苓(利水)、黄耆/人参(補脾胃、補気)、甘草/人参/茯苓(朮を欠く四君子湯)、人参/麦門冬(短気改善・生津止咳)から構成。文献では、慢性膀胱炎、慢性前立腺炎、腎盂腎炎に伴う尿路不定愁訴への効果、膀胱炎様症状の残存する女性症例への有用性、胃腸虚弱症例への効果、耐糖能改善効果、精神的ストレスがある過活動膀胱症例への有用性などが報告されている。当院医師への聞き取りでは、ユニット理論によりTJ111は気虚を治療する方剤であることの理解が深まり、黄耆/人参ユニット・甘草/人参/茯苓ユニット・人参/麦門冬ユニットの内、特に甘草/人参/茯苓ユニットや人参/麦門冬ユニットの重要性が新たに認識できた、との意見が過半数を占めた。

【考察】漢方薬では、方剤から科学的に抽出された構成成分の作用機序の理解ではその臨床効果が不明確である。多成分系薬剤として方剤の多面的な作用をユニット理論や論文報告で補填することは有用と考えられた。